

（事前資料）数理経済学会方法論分科会・方法論研究会共催／秋季ジョイントセミナー

Date:	2025.9.18 Thursday『これからの日本について考える---経済成長・医療と財政・企業家精神を通じて』
Venue:	大阪大学 豊中キャンパス（法・経大学院総合研究棟 1 階 e-コモンズ）

Time	Category	Speaker	Title	Abstract Document
14:00-15:00	Seminar	砂川和範(中央大学)	アントレプレナー行為の存在論的地平の可能性ー「企て」と「試み」ー	
15:00-16:00	Seminar	石橋英宣(日本経済研究センター)	日経センター長期経済予測 2075年次世代AIでよみがえる日本経済	
16:00-17:30	Symposium	座談会	『これからの日本について---経済成長・医療と財政・企業家精神を通じて』／提題・司会：浦井憲（大阪大学）／パネリスト：森井大一（日本医師会）、石橋英宣（日本経済研究センター）、砂川和範（中央大学）、他 TBA*	
18:00-20:30	Wrap-Up Meeting		総括懇親会（学内の予定）	

前半を2つのセミナー、後半をシンポジウム（全体討論）としていますが、後半の共通テーマは、砂川氏（Entrepreneurship）、石橋氏（経済成長）の講演、そしてパネリスト森井氏のコメント（医療と財政）を受け、「これからの日本について---経済成長・医療と財政・企業家精神を通じて」と考えています。前年9月、猪木先生を囲む座談会での「市場と民主主義」の議論、そして今年に入ってテーマとしてきた「宗教性」あるいは「リベラリズムの失敗」といった内容をしっかりと引き継ぎながら、砂川氏のお話「企業家精神 entrepreneurship」を、今現在の日本の抱える課題に向け、その導入および突破口に位置付けられたらと思います。

（シンポジウムの流れとしては、浦井が基本提題と司会を勤め、最初に森井氏のお話（20分程度）をお願いし、それを受けて石橋氏に、司会から質問の形でお話を伺いつつ(10分程度)、更にそれを受けて、砂川氏に質問の形でお話をお伺いして(10分程度)、そこで何かまとまったものが出てくることを期待しつつ、それを前半とします。後半は参加者皆様からのご意見を伺えたらと、そんな気持ちであります。）



以下、理論経済学の視点から、覚書を兼ねて、少し準備的にメモ書きを共有させていただきます。ケインズは『雇用・利子および貨幣の一般理論』において「企業者の決意」を、経済学における動学の鍵と考えていたと思います。その意味で、企業家精神は、貨幣の問題、不確実性、そして社会の学としての経済学（その最も重要な動学というテーマ）に向けて、最も重要な、手掛かりの一つを与えているものと思います。また一方で、企業（起業）という行為は、それが社会的行為である限り、単純に（方法論的な）個人主義的側面からではなく、個人と社会、個と全の問題を背景に、初めて成り立つものであると考えねばならないと思います。そのことが、当該のテーマを「政治」「国家」「宗教性」の問題に、私たちが「生きる」ことの中で、それらに直接のかかわりを持つところとして結びつけることになると思います。トランプ関税は当初自由貿易に反するものとして米国での景気後退インフレ要因として捉えられたと思いますが、蓋を開けてみると、恒久減税と合わせて個人消費の増大、国家財政支出の減少（USAID 解体、気候変動、WHO等への資金打ち切りなど）、国家財政の改善と国内投資の増大を伴いながら、インフレも抑制されており、現状のところ経済成長にプラスの見通しを与えているようです。雇用統計は移民政策の影響が大きいので微妙ながら、この全体に渡る影響を国家の上からの力のみによるものとして眺めるよりも、むしろそこに何らかの企業家精神に向けてのポジティブな影響があると見なすことは、これからの世界（日本）ということを考えていく上で、有益な視点かもしれません。いずれにしても、今日世界は、今一度、**国家とその意義、役割**ということについて、考え直すべき時期が来ているような気がします。

浦井 憲